

# 循環型社会のミクロ経済学（第3回）

## 本日の授業『動脈経済での価格決定原則②』の目標

- ①代表的な消費者行動の特徴がどのようなものかが分かること
- ②代表的な消費者の目的とその目的を達成する方法が分かること

## 本日の構成

- 3-0. 前回の授業の復習 +  $\alpha$
- 3-1. 代表的な消費者行動の特徴
- 3-2. 代表的な消費者の目的とその目的を達成する方法
- 3-3. まとめ

### 3-0. 前回の授業の復習 + $\alpha$

#### 3-1. 代表的な消費者行動の特徴

①消費者行動を観察する方法

②代表的な消費者行動の特徴その1

- (1)製品（モノ）を購入して得られる満足「効用」
- (2)製品を購入するために必要なお金「支出=価格×購入量」

<a>価格：製品を取引するときに必要なお金

<b>購入量：製品を購入する数

- (3)製品を購入した結果、増減する満足「便益=効用－支出」

<a>便益がプラス：満足が増える

<b>便益がマイナス：満足が減る

<c>便益がゼロ：満足の増減なし

③代表的な消費者行動の特徴その2

- (1)限界効用：製品を購入する数を1つ増やしたときに増える効用の大きさ

<a>少ない数の時よりも多い数の時の方が、限界効用は小さい

<b>「効用=限界効用の合計」

- (2)限界支出：製品を購入する数を1つ増やしたときに増える支出の大きさ

<a>価格が変わらない場合、「限界支出=価格」となる

<b>「支出=限界支出の合計」

#### 3-2. 代表的な消費者の目的とその目的を達成する方法

①目的 「便益を出来るだけ大きくするように製品を購入する事」

(1)効用：製品を購入することで得られる満足

一) (2)支出：製品を購入するために必要なお金

(3)便益：製品を購入することで増減する満足

②目的を達成するための方法 「限界的な意思決定による製品購入量の選択」

(1) 限界効用 > 限界支出  $\rightarrow$  製品の購入量の1つ増加を選択

$\rightarrow$  購入量を1つ増やしたときに得られる満足は、失うお金よりも大きい

$\rightarrow$  購入量を1つ増やすと、便益が増える (=購入量を1つ減らすと、便益が減る)

$\rightarrow$  便益の最大化という目的のためには、購入量を1つ増やした方が良い

(2) 限界効用 < 限界支出 ➡ 製品の購入量の1つ減少を選択

→ 購入量を1つ増やしたときに得られる満足は、失うお金よりも大きい

→ 購入量を1つ増やすと、便益が減る (=購入量を1つ減らすと、便益が増える)

→ 便益の最大化という目的のためには、購入量を1つ減らした方が良い

(3) 限界効用 = 限界支出 ➡ 製品の購入量の増減なしを選択

→ 購入量を1つ増やしたときに得られる満足は、失うお金と同じ

→ 購入量を1つ増やしても、便益が増えない (=購入量を1つ減らしても、便益が増えない)

→ 便益の最大化という目的のためには、購入量を増減しない方が良い

### 3-3. まとめ

①代表的な消費者は、自分の便益を出来るだけ大きくする目的のために、製品の購入をどのようにすれば良いのかを考えなければならない。

②代表的な消費者は、限界効用と限界支出が同じ大きさとなるように製品の購入量を定めれば、便益を最大にすることができる。

#### Memo